



養浩館庭園周辺

本資料は福井市 HP に掲載しております。QRコードよりご確認ください。

HPをご覧いただけます。QRコードよりご確認ください。

福井市景観計画



福井市景観計画 概要版

福井都心地区特定景観計画区域 (養浩館庭園周辺ゾーン)



はじめに

福井市では、景観法（平成16年法律第110号。以下「法」という。）に基づく制度を活用し、より魅力ある個性豊かな、美しい福井のまちを創造するため、平成20年3月31日に、法第8条第1項に基づく「福井市景観計画」を策定し、併せて本景観計画を運用していくために必要な事柄を定めた「福井市景観条例」を同日制定しました。（平成20年10月1日施行）

この概要版は、福井市景観計画の特定景観計画区域（養浩館庭園周辺ゾーン）における行為の制限等に関する基準として、その内容をご理解いただくとともに、今後のまちづくりにご協力いただくことを目的として作成したものです。

CONTENTS

はじめに

◆景観計画の概要

・ 地域の個性を活かした景観計画区域（特定景観計画区域）	1
・ 景観形成の目標	2
・ 景観形成の方針	2
・ 養浩館庭園内からの眺望景観保全のイメージ	3
・ 目指すデザインイメージ	4
・ 届出の対象となる行為	5
・ 届出に添付する図書の一覧	6
・ 届出に関する手手続きのフロー	7
・ 景観形成基準	8

◆屋外広告物について

・ 届出の対象となる行為	13
・ 届出書に添付する図書の一覧	13
・ 届出に関する手手続きのフロー	13
・ 景観形成基準	14

(参考図)建築物及び工作物の色彩基準	16
--------------------	----

◆景観計画の概要



地域の個性を活かした景観計画区域（特定景観計画区域）

福井市には、県都の顔である中心市街地や、まちの目印である足羽三山、歴史的に価値の高い一乗谷朝倉氏遺跡、福井県を代表する観光レクリエーションの拠点である越前水仙の群生地など、固有の景観を形成している地域が数多く見られます。

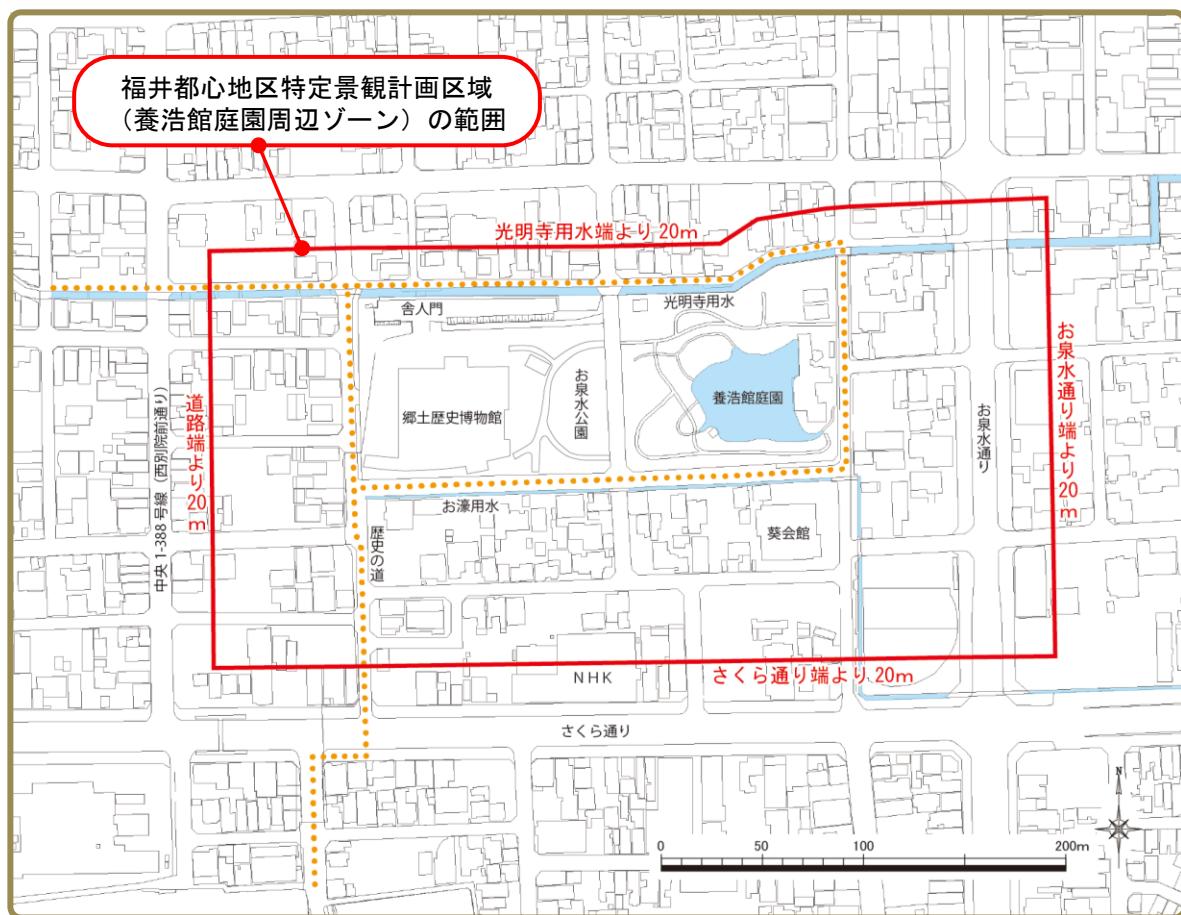
「福井市景観基本計画」では、これらの地域を「景観形成重点地区」として位置づけ、景観形成に関するきめ細かな方針や具体的な施策などを示しています。

そのため、こうした重点的に良好な景観の形成を図る必要があると認める区域については、福井市景観計画区域において区分指定を行い、区域ごとに届出対象行為や行為ごとの景観形成基準などを定め、地域の景観特性と調和した景観をきめ細かく誘導していきます。

今後、良好な景観の形成に関する地域住民の合意形成を図りながら、順次、「特定景観計画区域」の追加・拡大を行います。

※ 福井都心地区特定景観計画区域（養浩館庭園周辺ゾーン）

福井都心地区景観形成重点地区における重要な歴史・文化資源である養浩館庭園を核として、養浩館庭園内からの良好な眺望景観の保全及び、これと一緒に良好な景観の形成を図ることが望ましい区域を「福井都心地区特定景観計画区域（養浩館庭園周辺ゾーン）」として指定します。



※ 赤枠の区域内において行う建築物等の建築などの行為が、届出及び規制・誘導の対象となります。

ただし、区域内に含まれる通りに敷地が面しておらず、かつ、敷地の過半が区域内に含まれない場合は、対象となりません。



景観形成の目標

『福井らしさを実感できる風格あるシンボル景観の創生』

「福井らしい景観」を象徴する優れた景観資源を良好に保全・活用するとともに、都市空間の中に埋没することのないよう公共空間やまちなみの中に積極的に取り込みながら、市民が誇りをもち、福井らしさを実感することができる、風格のあるシンボル的な景観を創生します。



景観形成の方針

『歴史的雰囲気と水と緑が一体となった文化の薫り高いまちなみづくり』

養浩館庭園の有する歴史的な雰囲気や水辺環境、庭園内からの良好な眺望景観を保全するとともに、これらに誇りと愛着を感じながらいつまでも住み続けたいと思える文化の薫り高いまちなみづくりを目指します。

個別方針1

『養浩館庭園の環境保全と庭園内からの良好な眺望景観の保全』

養浩館庭園の環境を適切に保全・維持管理するとともに、周囲の建築物等の高さなどを適正に誘導しながら、回遊式庭園としてどこからでも良好な眺望景観が楽しめる空間づくりを進めます。



個別方針2

『養浩館庭園周辺を楽しみながら歩ける散策空間の形成』

福井城址とのつながりにも配慮しながら、歴史の道をはじめとする歩行者空間や水辺（用水）、花・緑、光（街路灯、ライティング）などを活かして、歴史的雰囲気をゆっくり楽しめる回遊の空間づくりを進めます。



個別方針3

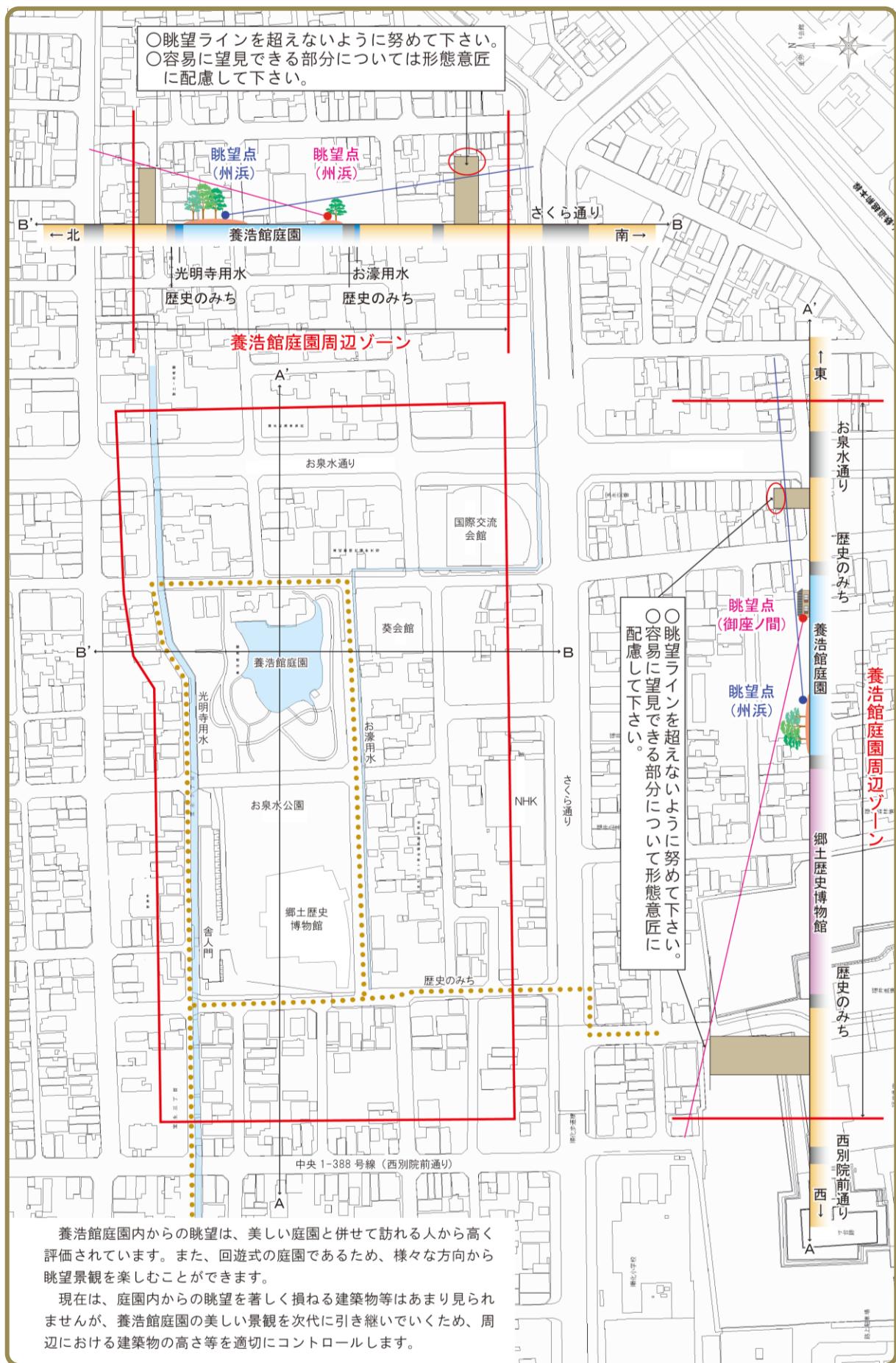
『まちの宝・誇りである養浩館庭園との調和を意識し、快適に住み続けられる質の高いまちなみの形成』

世界的に評価の高い養浩館庭園を身近に感じながら暮らすことに誇りと愛着をもち、歴史的な雰囲気との調和やかつての屋敷町の形態を意識しながら、屋敷回りをしつらえ、いつまでも快適で落ち着いて暮らしていくためのまちなみづくりを進めます。





養浩館庭園内からの眺望景観保全のイメージ



養浩館庭園内からの眺望は、美しい庭園と併せて訪れる人から高く評価されています。また、回遊式の庭園であるため、様々な方向から眺望景観を楽しむことができます。

現在は、庭園内からの眺望を著しく損ねる建築物等はあまり見られませんが、養浩館庭園の美しい景観を次代に引き継いでいくため、周辺における建築物の高さ等を適切にコントロールします。



目指すデザインイメージ（住宅に関する空間構成のイメージ）

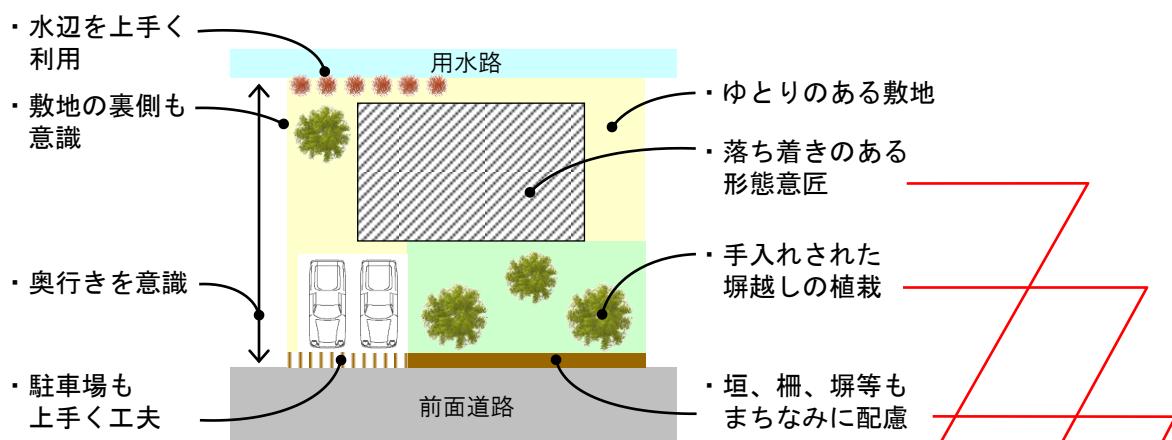
養浩館庭園は、江戸時代に「御泉水屋敷」と呼ばれた福井藩主松平家の別邸であり、その周囲には侍屋敷が建ち並んでいました。その多くは、奥行きのある規模の大きな町割りで、堀越しの松が見られるなど、風格が感じられるまちなみだったと考えられます。

町割りの形態は今も受け継がれ、当時の屋敷町の面影を思い浮かべることができます。

そこで、養浩館庭園周辺の歴史的雰囲気を次の世代に引き継ぐために、「現代版屋敷町」のあり方として、次のような空間構成を目指します。



（出典：福井市立郷土歴史博物館 ふくいの歴史アーカイブス
「福井城下古写真」）



目指す住宅のデザインイメージ

※住宅の一例であり、このような家並みでの統一を目指すものではありません。



届出の対象となる行為

行為の種類	届出の対象となる行為
建築物の新築等	<p>次に掲げるものを除く建築物の新築、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更</p> <p>(1) 建築物の新築、増築、改築又は移転に係る部分の延べ面積の合計が 10 m²以下のもの</p> <p>(2) 建築物の外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更で、当該変更に係る部分の面積が 10 m²以下のもの。</p> <p>(3) 工事を施工するために必要な仮設の建築物</p>
工作物の新設等	<p>次に掲げるものを除く工作物（生垣は、工作物から除く。）の新設、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更</p> <p>(1) 工作物の新設、増築、改築又は移転に係る部分の高さが 1.5m以下のもの</p> <p>(2) 工作物の外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更で、当該変更に係る部分の面積が見付面積の 1/2 以下のもの</p>
土地の開墾、 土石の採取、 鉱物の掘採 その他土地の 形質の変更	<p>(1) 当該行為に係る区域の面積が 300 m²を超えるもの</p> <p>(2) 当該行為に伴い高さが 1.5m を超え、かつ、延長が 20m を超えるのり面又は擁壁を生じるもの</p>
木竹の伐採	当該行為に係る区域の面積が 1,000 m ² を超えるもの
屋外における 土石、廃棄物 ^{※1} 及び再生資源 ^{※2} の堆積	当該堆積物の存する土地の区域の面積が 300 m ² を超えるもの。ただし、当該行為に係る期間が 60 日以内のものは、除く。
特定照明 ^{※3}	<p>(1) 届出の対象となる建築物及び工作物の形態・意匠を演出するために、その外観に対して行う照明で、期間が 60 日を超えるもの</p> <p>(2) 道路等の公共空間から容易に見える位置にある歴史・文化的に価値の高い建築物その他これに類する工作物又は物件の形態・意匠を演出するために、その外観に対して行う照明で、期間が 60 日を超えるもの</p>

※1 廃棄物：廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和 45 年法律第 137 号）第 2 条第 1 項に規定する廃棄物

※2 再生資源：資源の有効な利用の促進に関する法律（平成 3 年法律第 48 号）第 2 条第 4 項に規定する再生資源

※3 特定照明：夜間において公衆の観覧に供するため、一定の期間継続して建築物その他工作物又は物件（屋外にあるものに限る。）の外観について行う照明

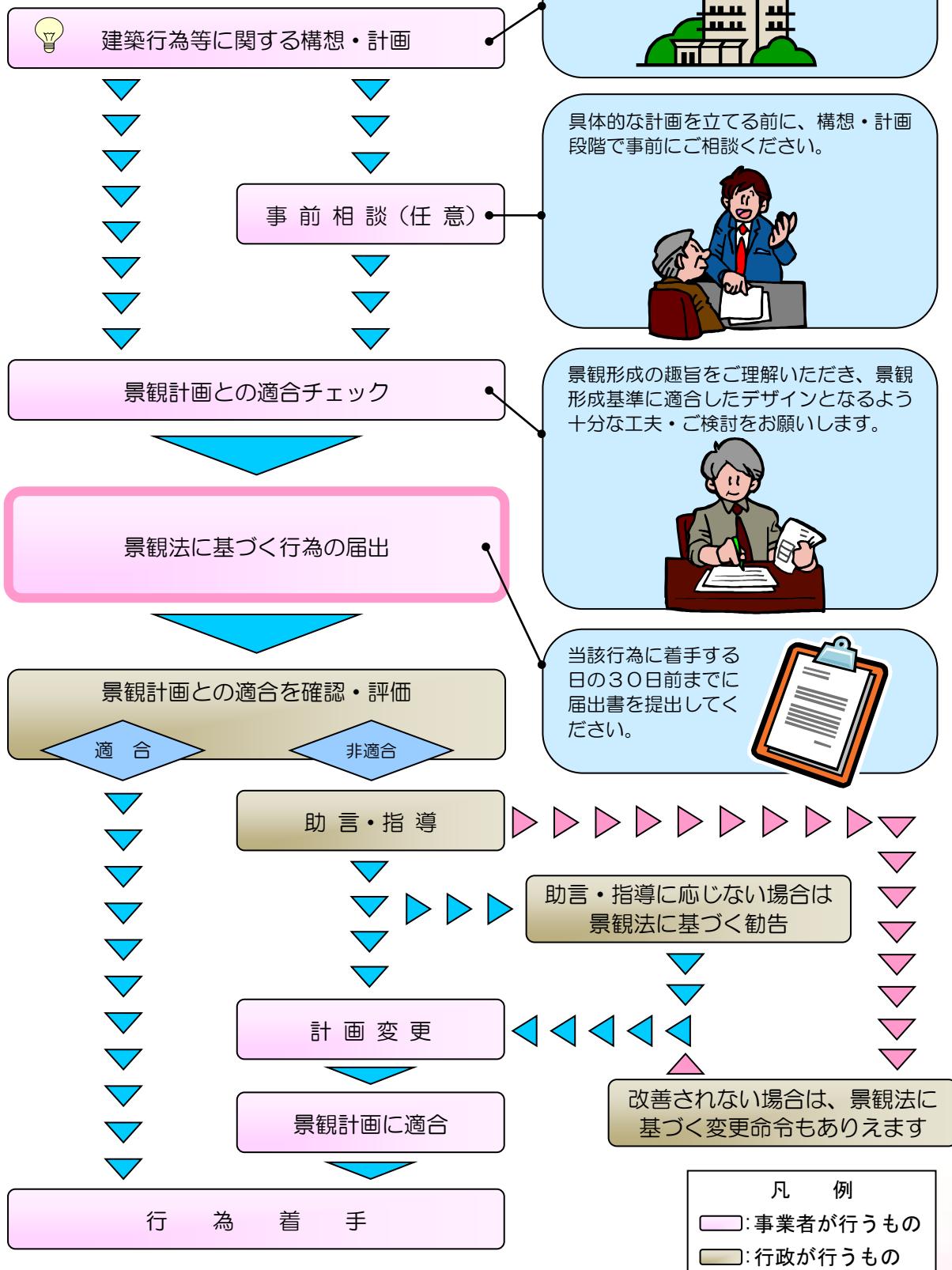


届出書に添付する図書の一覧

行為の種類	図書の種類	明示すべき事項
建築物の新築等 工作物の新設等	付近見取図	建築物又は工作物の敷地の位置及び当該敷地の周辺の状況を表示する図面で、縮尺 2,500 分の 1 以上のもの
	現況写真	当該敷地及び当該敷地の周辺の状況を示す写真
	位置図	当該敷地内における建築物又は工作物の位置を表示する図面で、縮尺 100 分の 1 以上のもの
	立面図	建築物又は工作物の彩色が施された 2 面以上の立面図で、縮尺 50 分の 1 以上のもの 注 1：着色し、露出する建築設備及び各部分の仕上げ（マンセル値など）を記載すること。 注 2：表示する 1 面については、道路を含むものとし、塀や植栽等を明示すること。
	チェックリスト	p.8～p.10 に示す景観形成基準に対する適合を示したもの
土地の開墾等、 木竹の伐採、 土石等の堆積、 特定照明	付近見取図	当該行為を行う土地の位置及び当該土地の周辺の状況を表示する図面で、縮尺 2,500 分の 1 以上のもの
	現況写真	当該行為を行う土地及び当該土地の周辺の状況を示す写真
	計画図	計画図又は施行方法を明らかにする図面
	チェックリスト	p.11 に示す景観形成基準に対する適合を示したもの



届出に関する手続きのフロー



注1:福井市景観条例に基づく屋外広告物の届出(p.13)も基本的にこのフローに準じます。

注2:上記の届出のほかに、建築確認申請、福井県屋外広告物条例等に基づく許可申請等が必要となる場合があります。



景観形成基準

(1) 建築物の新築等

① 配慮すべき基本的基準

- 1 周囲の景観への影響について十分に検討し、デザイン（形態、色彩、素材をいう。）等に工夫をする。
- 2 快適な歩行者空間を創出するため、外構においても十分に工夫をする。

② 項目別基準（「◎」は必ず守るべき基準、「○」は努力することが必要な基準、「・」は推奨する基準）

項目	景観形成基準
敷地内における位置及び外構	<p>◎暮らしに潤いや安らぎを与えるとともに、訪れる人をもてなすため、道路や用水路等との境界部は、生け垣や花き等を用いてしつらえる。</p> <p>・緑化にあたっては、四季を感じることができるものを用いることが望ましい。また、花や木の種類、フラワーポット等は統一することが望ましい。</p> <p>○道路に面して垣、柵又は塀を設ける場合は、デザインについて建築物及び周囲の景観と調和するよう努める。</p> <p>◎特に養浩館庭園及び郷土歴史博物館の周囲の通りに面して垣、柵又は塀を設ける場合は、必要以上に高くせず、歴史性を踏まえて和風の雰囲気と調和したものとする。</p> <p>・敷地に余裕がある場合は、できる限り前面道路からセットバックし、また、セットバックした空間にあっては、修景等のしつらえをすることが望ましい。</p> <p>・大規模な建築物の場合は、できる限り高木を設け、建築物による圧迫感を軽減することが望ましい。</p>
高さ	<p>○養浩館庭園内からの眺望や周囲の住環境及びまちなみを保全するため、建築物の高さは低く抑えるよう努める。</p> <p>○特に3階以上の部分又は養浩館庭園内から容易に望見できる部分については、形態意匠に配慮し、養浩館庭園内からの眺望への影響を軽減するよう努める。</p> <p style="text-align: right;">（3ページを参照）</p>
形態	<p>◎周囲の景観との調和に配慮した形態とする。</p> <p>◎特に養浩館庭園及び郷土歴史博物館の周囲の通りに面する建築物は、歴史性を踏まえ、和風の雰囲気が感じられる外観とするか、そのしつらえを取り入れる。（例）</p> <p>・屋根及び屋上の形状については、できる限り周囲の建築物との連続性に配慮することが望ましい。</p>

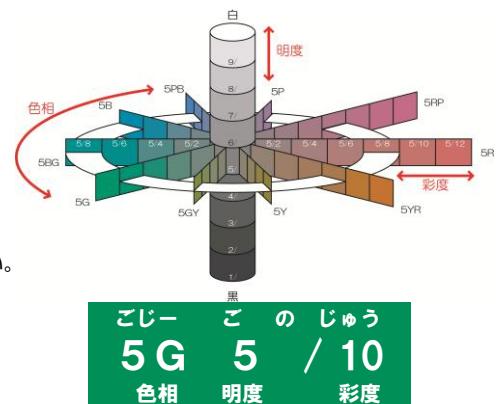


（例）和風の雰囲気が感じられるまちなみの例

(「◎」は必ず守るべき基準、「○」は努力することが必要な基準、「・」は推奨する基準)

項目	景観形成基準
色彩	<p>◎外観に用いる色は、マンセル値による彩度4以下、無彩色は明度2以上とする。特に養浩館庭園及び郷土歴史博物館の周囲の通りに面する建築物では、彩度は3以下、無彩色は明度2以上とする。ただし、建築物の屋根（庇を含む。）にあっては無釉の和瓦、銅板によるものの色彩、外壁等にあっては着色していない石材、木材、土壁、レンガ、金属材、ガラス材等によって仕上げられる部分の色彩又は見付面積の1/10未満の範囲内で外壁のアクセント色として着色される部分の色彩については、この限りではない。</p> <p>(p.16の参考図を参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に外壁は、マンセル値による色相がYR・Y系の色又は無彩色以外の色は用いないことが望ましい。 <p>○大規模な建築物は、周囲に与える圧迫感等を軽減するため、低明度の色彩は使用しないように努める。</p> <p>○使用的する色数は、できる限り少なくし、全体としてのバランスを阻害しないよう努める。</p>
素材、材料	<p>◎時間経過を考慮し、汚れにくく、耐久性のある素材、材料を使用する。</p> <p>○特に養浩館庭園及び郷土歴史博物館の周囲の通りに面する建築物は、歴史性を踏まえ、和風の雰囲気が感じられる素材・材料を用いるか、これを模した仕上げとするよう努める。</p>
ベランダ、屋外階段、附帯設備等	<p>○ベランダ、屋外階段、附帯設備等は、建築物との調和に配慮したデザインとなるよう努める。</p> <p>○特に、養浩館庭園及び郷土歴史博物館の周囲の通りに面する建築物又は、養浩館庭園内から容易に望見できる建築物は、洗濯物や室外機等はできる限り目立たないよう努める。</p>
附属建築物	<p>○車庫、自転車置場、倉庫、設備機械室等の附属建築物は、主建築物と調和し一体感のあるものとするよう努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路等の公共空間から目立たないよう十分配慮した位置に設け、これが困難な場合は、植栽等により遮蔽措置を行うことが望ましい。

※ マンセル値：色を数値的に表すための体系（表色系）の一種で、色彩を色の3属性（色相、明度、彩度）に基づいて表現する。マンセル表色系などとも言う。色の3属性のうち、色相は色の種類、彩度は色の鮮やかさ、明度は色の明るさの度合をいう。
(例：マンセル値5G 5/10 (ごじーごのじゅう) は、色相5G、明度5、彩度10)
色相ごとの詳細は、巻末の参考図を参照して下さい。



(2) 工作物の新設等

① 配慮すべき基本的基準

- 1 周囲の景観への影響について十分に検討し、デザイン（形態、色彩、素材をいう。）等に工夫をする。
- 2 快適な歩行者空間を創出するため、外構においても十分に工夫をする。

② 項目別基準 (「○」は必ず守るべき基準、「○」は努力することが必要な基準、「・」は推奨する基準)

項目	景観形成基準
敷地内における位置及び外構	<p>○敷地内における位置は、周囲の景観に悪影響を与えない位置とするよう努める。 ・大規模な工作物は、養浩館庭園内から容易に望見できる場所にはできる限り設置しないことが望ましい。</p>
高さ	<p>○周囲の景観に悪影響を与えない高さとするよう努める。 ○特に養浩館庭園内から容易に望見できる工作物については、形態意匠に配慮し、養浩館庭園内からの眺望への影響を軽減するよう努める。</p>
形態	<p>○公共空間に設置する歩行者系標識（サイン）は、「福井市公共サインマニュアル」を遵守する。 ・主建築物又は周囲の景観に調和した形態とすることが望ましい。 ○道路に面して垣、柵又は塀を設ける場合は、緑化や色彩の工夫、壁面形状に変化をつけるなどの修景措置を行うよう努める。 ○特に養浩館庭園及び郷土歴史博物館の周囲の通りに面して垣、柵又は塀を設ける場合は、歴史性を踏まえて和風の雰囲気が感じられる形態とするよう努める。</p>
色彩	<p>○法令で定められたもの以外の色は、マンセル値による彩度4以下、無彩色は明度2以上とする。ただし、着色していない石材、木材、土壁、レンガ、金属材、ガラス材等によって仕上げられる部分の色彩又は、面積を抑え外観のアクセント色として着色される部分の色彩については、この限りではない。 ○特に養浩館庭園及び郷土歴史博物館の周囲の通りに面する工作物の色は、彩度2以下とし、歴史性を踏まえて和風の雰囲気が感じられるよう努める。 ・マンセル値による色相がR、YR、Y以外の色は、彩度2以下とすることが望ましい。 (p.16 の参考図を参照) ○養浩館庭園内から容易に望見できる工作物については、養浩館庭園内からの眺望景観を阻害しない色彩とするよう努める。 ○使用する色数は、できる限り少なくし、全体のバランスを阻害しないよう努める。 ・自動販売機及びモニュメント等については、上記によらず、周囲の景観に調和した色彩とすることが望ましい。</p>
素材、材料	<p>○時間経過を考慮し、汚れにくく、耐久性のある素材、材料を使用する。 ○特に養浩館庭園及び郷土歴史博物館の周囲の通りに面する工作物については、歴史性を踏まえて和風の雰囲気が感じられる素材・材料を用いるよう努める。</p>

(3) その他の行為

① 配慮すべき基本的基準

周囲の景観への影響について十分に検討し、その影響を必要最小限に留めるよう工夫する。

② 項目別基準

(「◎」は必ず守るべき基準、「○」は努力することが必要な基準、「・」は推奨する基準)

項目	景観形成基準
土地の開墾、 土石の採取、 鉱物の掘採 その他土地の 形質の変更	○当該行為に係る区域の周囲には、植栽又は景観に配慮した塀を設けるなど、道路等の公共空間からの遮蔽措置に努める。
木竹の伐採	○樹種、樹齢、樹形等の木竹の状況又は生態系を考慮し、価値の高いもの、地域におけるランドマークとして親しまれているものは伐採しないよう努める。 ・木竹の伐採後は、その地域の植生に適した樹種を植栽することが望ましい。
屋外における 土石、廃棄物 及び再生資源の 堆積	○道路等の公共空間から目立たないよう、植栽又は景観に配慮した塀等による遮蔽措置に努める。 ○堆積の高さはできる限り低くし、また、整然と積み上げ、敷地周辺に圧迫感や危険性を与えないよう努める。 ○特に養浩館庭園及び郷土歴史博物館の周囲の通りに面する場所においては、遮蔽等の景観的措置を行う。
特定照明	○周辺の住環境や交通環境、生態系等に対して光害 [*] とならないようする。 ○光源の選定、照明方法、点灯時間、明るさ等について十分に検討し、投光の目的や地域の景観特性に合ったものとなるよう努める。 ○特に養浩館庭園内から容易に望見できる位置にある建築物においては、眺望景観に与える影響に十分に配慮するよう努める。

※ 光害：良好な照明環境の形成が、漏れ光によって阻害されている状況又はそれによる悪影響

(「光害対策ガイドライン」／環境省)

(4) 景観法によらないその他の基準

次の項目に掲げる行為は、景観法に基づく届出の対象となる行為ではありませんが、建築物、工作物等と一体となった良好な景観の形成を図るため、次のような基準を推奨していきます。

項目	景観形成基準
管理、保全	<ul style="list-style-type: none">用水の水量確保に努めるとともに、茧などの生物が棲める環境をつくることが望ましい。
緑化、修景	<ul style="list-style-type: none">用水空間なども利用して、統一感のある花き等で彩りを演出することが望ましい。フラワーポット等を効果的に配置することにより、心地よく歩ける道路空間となることが望ましい。
歩行者空間の演出	<ul style="list-style-type: none">夜間も安心して歩けるように門灯などを上手く使うことが望ましい。街路灯や手すりなどは、歴史性を踏まえて和風の雰囲気が感じられるデザインに統一することが望ましい。電線類は地中化、又は目立たないようにすることが望ましい。福井城址などから養浩館への導線計画を考え、舗装や案内板等で上手く誘導することが望ましい。親しみのある通り名を付け、みんなできれいにしていくことが望ましい。
清掃、美化	<ul style="list-style-type: none">庭木や生垣などは、見られることを意識してきれいに手入れすることが望ましい。用水沿いを心地よく歩けるよう、用水周りをきれいにすることが望ましい。

◆屋外広告物について

屋外広告物は景観を構成する重要な要素の一つであり、自己主張の強い屋外広告物は福井らしい景観の形成を阻害する要因となることから、届出の対象として適正に誘導します。
(※景観法に基づく届出行為ではなく、福井市景観条例に基づく届出行為です。)



届出の対象となる行為

行為の種類	届出の対象となる行為
屋外広告物の表示等	<p>屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の新設、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕又は色彩の変更に係るすべての行為 ただし、次に掲げるものを除く</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 屋外広告物の表示面積が 1 m²以下のもの(2) 掲示板等に表示等するもの(3) 広告期間が 30 日以内で表示等するもの(4) 法令の規定により表示等するもの(5) 国又は地方公共団体が表示等するもので、災害、事故その他緊急時に表示するもの又は公共施設の管理及び利用者の利便性を図るために表示するもの(6) 国又は地方公共団体が表示等するもので、市長に協議したもの(7) 公職選挙法による選挙運動のために表示等するもの



届出書に添付する図書の一覧

図書の種類	明示すべき事項
付近見取図	広告物の敷地の位置及び当該敷地の周辺の状況を表示する図面
現況写真	当該敷地及び当該敷地の周辺の状況を示す写真
位置図	当該敷地内における広告物の位置を表示する図面
意匠図	当該広告物の色彩（マンセル値）や意匠、仕上げ方法を表示した図面等
チェックリスト	p.14～p.15 に示す景観形成基準に対する適合を示したもの



届出に関する手続きのフロー

原則として、景観法に基づく届出のフローに準じます。ただし、景観法に基づく勧告・変更命令は適用となりません。（p.7 参照）



景観形成基準

① 配慮すべき基本的基準

- 1 周囲の景観への影響について十分に検討し、規模やデザイン（形態、色彩、素材をいう。）等に工夫をする。
- 2 建築物を利用する場合は、そのものに対して不調和とならないよう工夫する。
- 3 表示の方法や内容等により、人々に不快感を与えることのないよう工夫する。

② 項目別基準 (「○」は必ず守るべき基準、「○」は努力することが必要な基準、「・」は推奨する基準)

項目	景観形成基準
表示等の制限	<p>○養浩館庭園及び郷土歴史博物館の周囲の通りに面する場所では、自家用広告物以外は表示又は掲出をしない。ただし、建築物と同一敷地内に設置される案内広告物については、この限りではない。</p> <p>○養浩館庭園内からの眺望を保全するため、広告物の高さは低く抑え、養浩館庭園内から容易に望見できる位置にある建築物を利用する場合は、養浩館庭園内から見える位置には表示又は掲出をしない。</p>
位置、規模、形態及び高さ	<p>○信号機や道路標識及び公共の案内・誘導標識の近くに設置する場合は、それらの認知及び視野を妨げない位置とする。</p> <p>○周囲の景観に悪影響を与えないような位置、規模、形態及び高さとするよう努める。</p> <p>○広告物の数や大きさは、できる限り最小限に留めるよう努める。</p> <p>・特に養浩館庭園及び郷土歴史博物館の周囲の通りに面する広告物は、歴史性を踏まえて和風の雰囲気が感じられる形態とすることが望ましい。</p>
色彩	<p>○信号機や道路標識、公共の案内・誘導標識の近くに設置する場合は、それらの認知を妨げない色とする。</p> <p>○マンセル値による彩度 10 以上の色、養浩館庭園及び郷土歴史博物館の周囲の通りに面する場所では、彩度 4 を超える色を使用しないよう努める。ただし、当該表示面積の 1/10 未満の範囲内で使用するアクセント色については、この限りではない。</p> <p>○上記によらない場合は、屋外広告物の 1 面につき、当該表示面積の 30%以上は白色又は素材色とするよう努める。</p> <p>・蛍光塗料や反射塗料等は、使用しないことが望ましい。</p>
素材、材料	<p>○汚れにくく、耐久性のある素材を使用する。</p> <p>・特に養浩館庭園及び郷土歴史博物館の周囲の通りに面する広告物は、歴史性を踏まえて和風の雰囲気が感じられるような素材・材料を使用することが望ましい。</p>
照明広告	<p>○光源の選定、照明方法、点灯時間、明るさ等について十分に検討し、周囲の景観に悪影響を与えないよう努める。</p> <p>○内照式の広告物は、極端に大規模なものとしないよう努める。</p> <p>○点滅又は回転する付帯ランプは使用しないよう努める。</p> <p>○特に養浩館庭園及び郷土歴史博物館の周囲の通りに面する場所では、点滅又は回転するランプ類や電飾ネオン広告類は使用しない。ただし、注意喚起を促す広告物については、この限りではない。</p>

(「◎」は必ず守るべき基準、「○」は努力することが必要な基準、「・」は推奨する基準)

項目	景観形成基準
屋上利用広告	<ul style="list-style-type: none"> ◎骨組み、支柱等は、道路等の公共空間から目立たないようにする。 ◎1の建築物について1件とし、屋上の水平投影面をはみ出さないようにする。 ○塔型や極端に大規模な広告物は避け、周囲の景観に悪影響を与えたる、歩行者に対して圧迫感や不安定感を与えたるしないよう努める。 ○表示面積は、建築物の見付面積の1/5以下とするよう努める。 ・文字等（社章、シンボルマーク及びイメージ図等を含む。）を表示した面積は、建築物の見付面積の1/10以下とすることが望ましい。
壁面利用広告	<ul style="list-style-type: none"> ◎壁面の文字は、事業所名、社章及びシンボルマークのみとする。 ◎壁面からはみ出さないようにする。 ○表示面積（既存のものを含む。）は、建築物の見付面積の1/5以下とするよう努める。特に養浩館庭園及び郷土歴史博物館の周囲の通りに面する建築物を利用する場合は、見付面積の1/10以下とするよう努める。 ○3階以上の窓面には、表示しないよう努める。 ○窓面広告の表示面積（既存のものを含む。）の合計は、表示する窓の面積に対して1/3以下とするよう努める。
突出広告	<ul style="list-style-type: none"> ○多数の事業所が一の建築物内にある場合は、1壁面に1列にまとめて設置するか、建築物と調和した規模、デザインとするよう努める。 ○特に養浩館庭園及び郷土歴史博物館の周囲の通りに面する建築物を利用する場合は、できる限り小規模なものとするよう努める。
地上広告	<ul style="list-style-type: none"> ◎自家用広告物は、多数の事業所が一の建築物内にある場合でも、まとめて2個以内の設置とする。 ○容易に移動させることができる広告物又は立看板は、建築物と同一敷地内の設置とし、1個の大きさは、高さ1.8m以下、幅0.9m以下とするよう努める。 ○空き地又は平面駐車場においては、2個以内とし、高さ4m以下とするよう努める。
その他の広告物	<ul style="list-style-type: none"> ◎貼紙、ポスター等は、壁面へ直貼をしない。 ・消火栓の位置を表示する標識には、広告物を設けないことが望ましい。 ○のぼり旗※は設置しない。ただし、一ののぼり旗と他ののぼり旗との距離は、これらののぼり旗のうちいずれか高いほうの高さに相当する距離の2倍以上とし、周辺環境に配慮したデザイン（形態、色彩、素材をいう。）とした上で、適切な時期・時間にのみ設置するものについては、この限りでない。

※ のぼり旗：容易に移動させることができる状態で立てられ、または容易に取り外すことが出来る状態で工作物等に取り付けられている広告の用に供する旗（これを支える台を含む。）およびこれに類するもの。

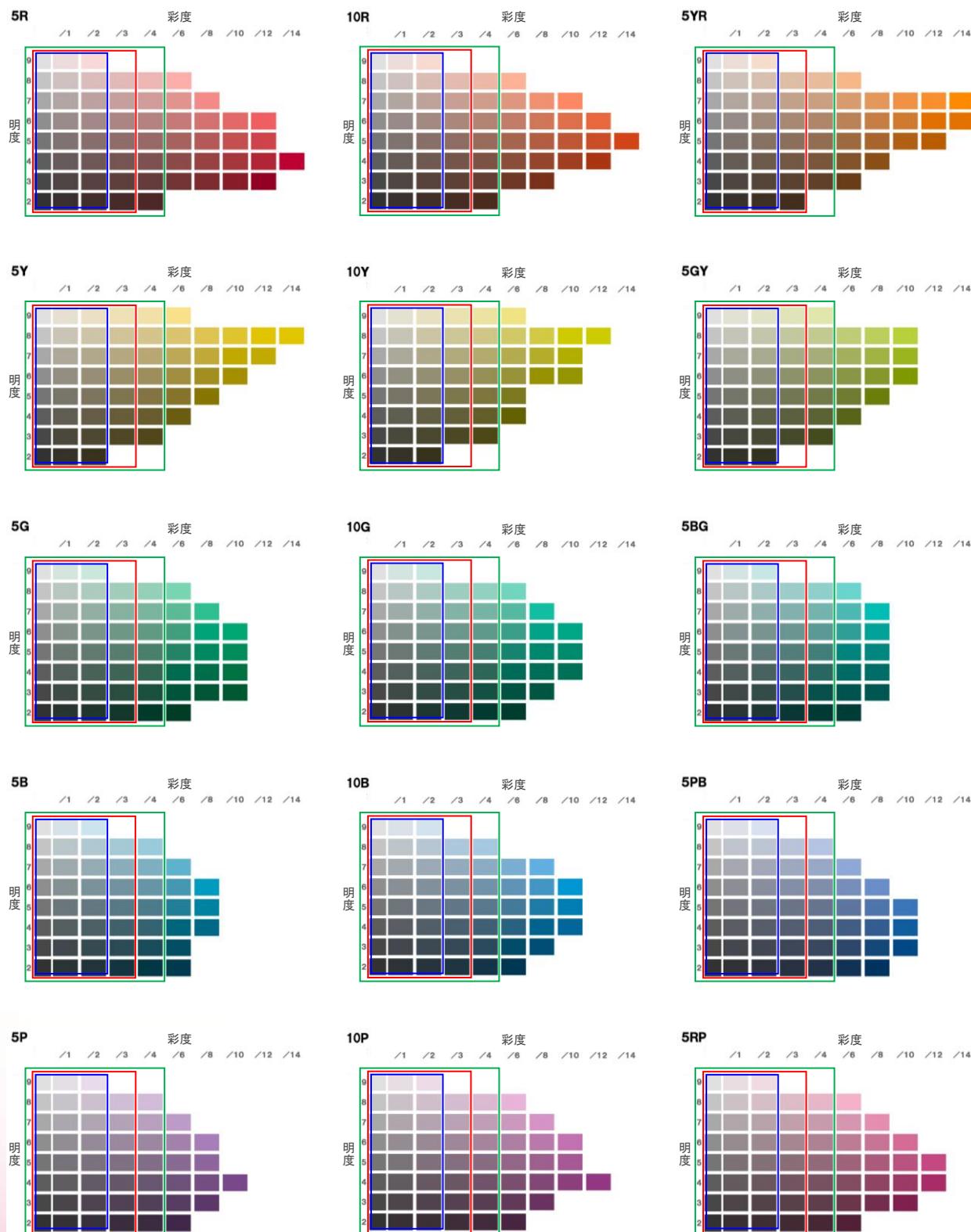
(参考図) 福井都心地区特定景観計画区域（養浩館庭園周辺ゾーン）における色彩基準

福井都心地区特定景観計画区域（養浩館庭園周辺ゾーン）では、建築物の新築等、工作物の新設等、屋外広告物の表示等を行う際の色彩基準を定めており、そのうち、建築物、工作物については、以下のマンセル表色系に示す各色相の枠内が使用できる範囲となります。

(養浩館庭園・郷土歴史博物館の周囲の通りに面する建築物 : **赤枠** 、同工作物 : **青枠**)

上記以外の建築物・工作物 : **緑枠**)

ただし、各色相の代表色を示したものであり、また、印刷によるもので正確な色彩ではないため、実際の色は色票により確認してください。



福井市景観計画 概要版
福井都心地区特定景観計画区域（養浩館庭園周辺ゾーン）

発 行
平成 26 年 3 月

福井市 都市戦略部 都市整備室
〒910-8511 福井市大手 3 丁目 10 番 1 号
TEL: 0776-20-5454
E-mail: tosiseibi@city.fukui.lg.jp